

マシジミ *Corbicula leana* Prime

【選定理由】

マシジミは愛知県の平野部の河川、湖沼にごく普通に生息していた淡水二枚貝であった(愛知県科学教育センター,1967;木村,1994)。しかし、1990年代にカネツケシジミ(タイワンシジミ *Corbicula fluminea* (Muller, 1774) の黄色型)が愛知県にも移入、定着し、マシジミ分布域の多くで、移入したカネツケシジミと置き換わっていることが確認された(原田,2000;木村,2002)。2002年7月から8月にかけて5回に渡って豊田市内の河川の調査をしたところ、カネツケシジミが広域に定着し、その反面5年前の調査時と比較してマシジミの生息場所、生息数ともに著しく減少していることを確認した(木村 2002)。2006年からの調査では、河川下流域、大きな水系とつながった水路等には、カネツケシジミが定着し、マシジミはほとんど見られなくなった。また、貝殻の形態でマシジミと同定される個体でも、同所的にカネツケシジミが生息している場合には遺伝子がカネツケシジミに汚染されている可能性が高い。



カネツケシジミ(タイワンシジミ黄色型)

マシジミ

1cm

豊田市御船川, 上: 2002年7月2日, 下: 1996年8月, 木村昭一 採集

【形態】

殻長30mm程度の三角形に近い形をした二枚貝。殻表の成長脈はやや荒く、殻の色彩は黄褐色から黒色。カネツケシジミの典型的な個体は殻表の色彩が鮮やかな黄色で内面は白色になるので区別は明確であるが、マシジミかタイワンシジミ類か同定が困難な個体も多く出現する。

【分布の概要】

マシジミは日本固有種で、東北から九州に生息。カネツケシジミを含むタイワンシジミ類が日本に移入、定着した例は、1985年岡山県で最初に確認され、その後、兵庫県など西日本において本種の定着が報告されている(増田・内山, 2004)。また、愛知県でも2000年に知立市での定着例が報告されている(原田, 2000)。マシジミの分布域のうち関東以西の各地では猛烈なスピードでタイワンシジミ類に置き換わっている(増田・内山, 2004)。愛知県(木村, 2002)、岐阜県、三重県でも同様の現象が確認されている。マシジミかタイワンシジミ類か区別できない個体の生息地も多い上に、猛烈なスピードでカネツケシジミが分布域を広げているので分布図に提示した産地は2006年から2008年の調査で、マシジミと形態的に同定される個体のみが生息していた産地を示す。全て大きな水系とは隔離された小河川のみで、わずか3ヶ所にとどまった。山地から直接流れる小河川や湧水を水源とする水路などを詳しく調査すれば、生息地は増加すると思われる。

県内分布図



【生息地の環境/生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況/減少の要因】

【選定理由】の項参照。

【保全上の留意点】

カネツケシジミが移入した水域ではもうどうすることもできないが、せめて未だ移入していない生息地を早急に発見し、カネツケシジミが移入しないように措置を講ずる必要がある。

【特記事項】

今回新たにレッドリストに掲載された。

【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物, 151pp.
原田一夫, 2000. タイワンシジミが愛知県に侵入。かきつばた, 26: 10. 名古屋貝類談話会。
木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相。研究彙報(第33報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会。
木村昭一, 2002. 豊田市におけるカネツケシジミ(タイワンシジミ黄色型)の繁殖例。かきつばた, 28:18-19. 名古屋貝類談話会。
増田 修・内山りゅう, 2004. 日本産淡水産貝類図鑑 汽水域を含む全国の淡水貝類。ピーシーズ, 240pp